

# 新 子豚から飼料米を食べた元気でおいしいふくいポークづくり

## (現状)

- ふくいポークの出荷頭数が横ばい

平成20年度：4,200頭  
平成21年度：4,020頭



- 子豚の発育不良による生産低下

子豚育成率：82.5%

- コシヒカリの古里である福井県で飼料米の生産が拡大

平成21年度：56ha → 平成22年度：100ha

- 肥育豚に玄米を給与すると脂肪交雑は入るが、背脂肪が厚くなる (H21研究成果)

- 乳酸菌や米には、アミノ酸が多く含まれ、子豚の発育を改善する効果がある

- 米粉の乳酸発酵食品が、福井県食品加工研究所で開発された (H21年度)

- 学校給食やコンビニエンスストア等の食材としてふくいポークの利用が進展

- ふくいポークの生産拡大と特徴付けが求められてる

## (課題)

- ふくいポークの生産拡大のため、子豚の健康維持、発育改善技術の確立が必要

- 豚肉に脂肪交雑を入れながら、背脂肪を薄くする技術の確立が必要

- 豚の生時から出荷まで飼料米を給与する飼養技術が確立されていない

## (研究内容)

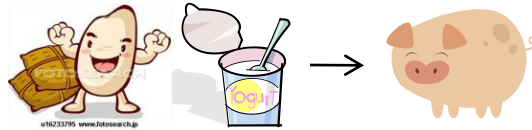
飼料米（米粉・玄米・粳米）を活用して、子豚の健康維持、発育向上、肥育豚の肉質改善技術を確立する。

- 米粉乳酸発酵飼料、玄米の利用による子豚の発育改善技術の検討（生時～離乳～育成期）

- 給与量、給与方法の検討
- 自然免疫機能強化効果の検討
- 血液、ホルモン検査等による子豚のストレス評価

(調査項目)

- 発育成績（増体量・飼料効率・疾病状況等）
- 免疫性（免疫グロブリン・マクロファージ）
- 血液検査（血糖、NEFA、BUN、コルチゾン等）



- 粳米の給与による肉質改善技術の検討（肥育期）

- 給与量の検討

(調査項目)

- 発育成績（増体量・飼料効率等）
- 肉質成績（背脂肪厚、脂肪交雑等）
- 官能検査



- 飼養管理マニュアル等の作成

- 農家における実証調査と経済性
- 飼養管理マニュアルの作成



## (研究目標)

- 子豚の健康維持、発育改善による生産性の向上や豚肉の肉質向上

子豚育成率のアップ：10%

子豚の増体量：

生時～離乳：0.2kg

離乳～育成：0.5kg

背脂肪の厚さ：2.5cm以下

## (期待される成果)

- ふくいポークの生産拡大
- 農家収益の拡大による養豚経営の安定

